

MGC

2022年度 第2四半期
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社

2022年11月8日

証券コード
4182



1 | 2022年度 第2四半期 決算概要

2 | 2022年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス

はじめに「2022年度第2四半期決算概要」、次に「2022年度通期業績予想」、続いて「セグメント別業績概要」、最後に「トピックス」という順でご説明いたします。

1 | 2022年度 第2四半期 決算概要

2 | 2022年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス

まず、2022年度 第2四半期業績についてご説明します。

2022年度 第2四半期 業績サマリー



－ 円安効果やポリアセタールの販売好調等で増収増益

単位:億円	2021年度 2Q累計	2022年度 2Q累計	増 減		2022年度 2Q累計 前回予想*
			金額	%	
売上高	3,358	3,949	590	17.6	4,000
営業利益	300	335	34	11.6	310
(持分法利益)	(69)	(106)	(36)	－	(87)
経常利益	387	499	111	28.8	410
親会社株主に帰属する四半期純利益	281	342	60	21.6	300
					*2022年8月5日公表
一株当たり四半期純利益(円/株)	135.50	166.33			
為替レート(JPY/USD)	110	134			

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

4ページ、2022年度第2四半期の業績概要をご覧ください。

売上高3,949億円、営業利益335億円、経常利益499億円となり、営業利益と経常利益では当社の過去最高益を更新しました。

円安効果やポリアセタールの販売好調等で増収増益

- 売上高:円安効果や、原燃料高の販売価格への転嫁などにより増収
- 営業利益: (+) 為替要因(+75億円)
(+) ポリアセタール(POM)の販売好調
(-) 輸送費、原燃料価格の上昇
- 持分法利益: 海外メタノール生産会社を中心に増益
- 前回予想比: ポリカーボネート(PC)やBT材料等が下振れたものの、円安効果、POMの販売好調等で上振れ
- 配当: 中間40円(前回予想と同額)

5ページは、2022年度第2四半期業績のポイントについて示しております。

売上高は、円安効果や原燃料高の販売価格への転嫁などにより、増収となりました。

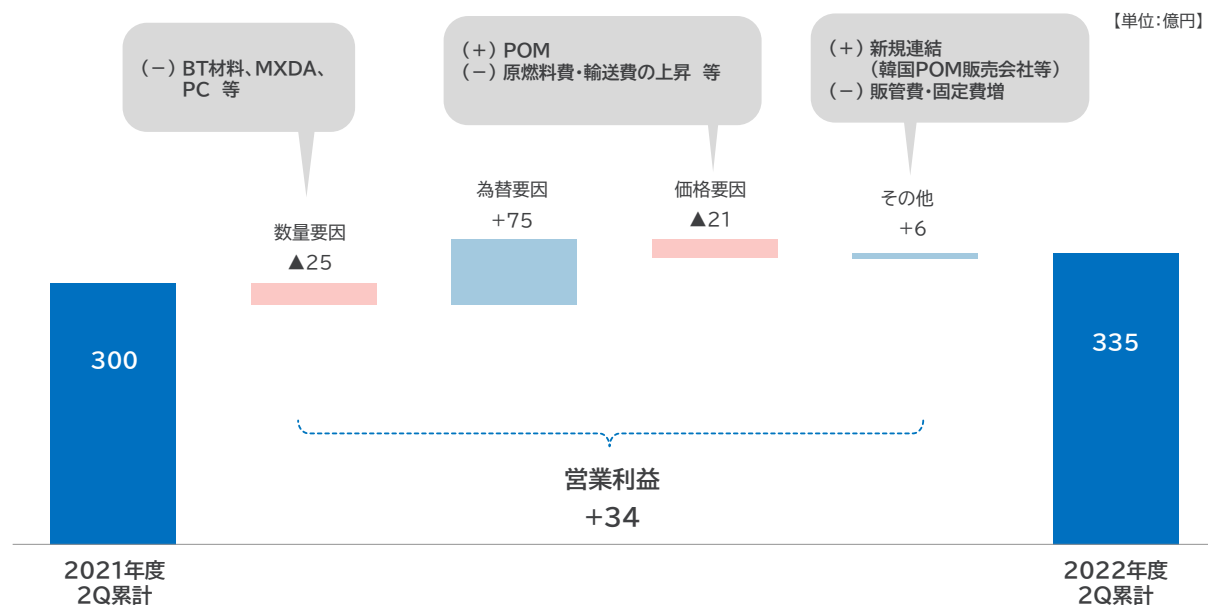
営業利益段階では、原燃料価格や輸送費の上昇などの減益要因があったものの、円安効果や、ポリアセタールの販売好調などにより、増益となりました。

持分法損益は、海外メタノール生産会社を中心に前年を上回り、増益となりました。

前回予想比では、ポリカーボネートやBT材料等が下振れましたが、円安効果やポリアセタールの販売好調がそれを上回り、上振れとなっております。

なお、中間配当については、普通配当40円といたします。

2022年度 第2四半期 営業利益 増減要因(前年比)



6ページに、2022年度第2四半期の営業利益の増減要因を、対前年比で示しております。後ほど、ご参照願います。

2022年度 第2四半期 営業外損益・特別損益

単位:億円	2021年度 2Q累計	2022年度 2Q累計	増 減
営業外損益	87	164	76
持分法による投資損益	69	106	36
金融収支	18	15	▲2
為替差損益	1	49	47
その他	▲2	▲6	▲4
特別利益	21	5	▲16
段階取得に係る差益	7	-	▲7
受取保険金	7	-	▲7
投資有価証券売却益	6	3	▲2
その他	-	1	1
特別損失	▲24	▲8	16
減損損失	▲13	▲1	11
貸倒引当金繰入額	▲7	▲1	6
関係会社事業損失引当金繰入額	▲2	-	2
土地整備費用引当金繰入額	-	▲2	▲2
その他	▲1	▲3	▲1
特別損益合計	▲3	▲3	▲0

- 持分法損益
 - 基礎化学品 +29
 - 機能化学品 +7 等

(注) 本表の増減は対損益増減を示しております。

続いて、7ページに営業外損益・特別損益、8ページに貸借対照表、9ページにキャッシュフロー計算書を記載しておりますが、時間の関係上、説明は省略させていただきます。

2022年度 第2四半期 貸借対照表



単位:億円	2022年3月末	2022年9月末	増 減	単位:億円	2022年3月末	2022年9月末	増 減
流動資産	4,522	4,787	265	負債	2,977	3,372	394
現預金	1,020	1,013	▲ 6	買掛債務	923	902	▲ 21
売掛債権	1,765	1,822	57	有利子負債	1,176	1,442	265
棚卸資産	1,556	1,738	182	その他	877	1,027	149
その他	179	212	32				
固定資産	4,764	5,341	576	純資産	6,308	6,756	447
有形固定資産	2,763	3,036	272	株主資本	5,472	5,668	195
無形固定資産	112	116	3	その他包括利益累計額	215	412	197
投資その他の資産	1,887	2,188	300	非支配株主持分	621	675	54
資産合計	9,286	10,128	842	負債・純資産合計	9,286	10,128	842
				自己資本比率	61.2%	60.0%	

2022年度 第2四半期 キャッシュフロー計算書



単位:億円	2021年度 2Q累計	2022年度 2Q累計	増 減
営業キャッシュフロー	234	133	▲ 101
投資キャッシュフロー	▲ 310	▲ 308	2
フリーキャッシュフロー(差引)	▲ 75	▲ 174	▲ 98
財務キャッシュフロー	▲ 156	49	206
現金及び現金同等物に係る換算差額等	16	99	83
現金及び現金同等物の増減額(合計)	▲ 216	▲ 25	191
現金及び現金同等物の期首残高	910	922	11
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	15	20	5
現金及び現金同等物の四半期末残高	709	917	208

1 | 2022年度 第2四半期 決算概要

2 | 2022年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス

2022年度通期 業績予想

－ 円安効果があるものの、半導体関連製品等の販売数量下振れなどにより、前回予想比で下振れ

単位:億円	2022年度 前回予想*	2022年度 今回予想	増 減		2021年度 実績
			金額	%	
売上高	8,100	8,100	0	0	7,056
営業利益	625	600	▲ 25	▲ 4.0	553
(持分法利益)	(190)	(169)	(▲ 21)	-	(148)
経常利益	835	800	▲ 35	▲ 4.2	741
親会社株主に帰属する当期純利益	620	570	▲ 50	▲ 8.1	482
*2022年8月5日公表					
一株当たり当期純利益(円/株)	302.05	277.63			232.15
R O E (%)	10.6	9.7			8.8
R O I C※ (%)	10.7	10.3			10.4
為替レート(JPY/USD)	130	137			112

※ROIC=経常利益/投下資本

11ページは2022年度通期 業績予想の概要を示しております。

売上高8,100億円、営業利益600億円、経常利益800億円を予想しております。

対前回予想:営業利益▲25億円、経常利益▲35億円

- 営業利益(予想比)
 - (+) 為替要因(円安※) +40億円 ※ 通期予想(JPY/USD:前回130 → 今回137)
 - (+) POM販売好調
 - (-) 販売数量の下振れ(半導体向け製品、MXDA等)、PCの採算悪化
- 持分法利益(予想比):▲21億円
 - 基礎化学品(海外メタノール生産会社)が上振れも、機能化学品が下振れ
- 期末配当予想: 40円(前回予想と同額)

【営業利益と持分法損益の連結消去修正による入り繰り】

機能化学品セグメントにおいて、連結消去修正を行った結果、前回予想と今回予想の営業利益と持分法損益の間で通期約30億円(上期15億円、下期15億円)の入り繰りが生じている。そのため、今回予想において、営業利益段階では前回予想に比べ約30億円の**上振れ要因**、持分法損益では約30億円の**下振れ要因**に。(経常利益段階では影響なし)

■為替前提(下期): 1米ドル140円(前回予想より10円の円安)、1ユーロ140円(前回予想より5円の円安)

(為替感応度(USD、概算):1円の円安(円高)で、営業利益6億円/年、経常利益5億円/年の増益(減益))

■原油価格前提(下期): 100ドル/bbl. (前回予想より10ドルの下落)

(原油感応度(USD、概算):1\$/bbl.の下落(上昇)で、1.5億円/年の増益(減益)、メタノールへの影響は含まず)

12ページは、2022年度通期業績見通しのポイントを示しております。

11月8日の決算発表と同時に業績予想を修正いたしました。対前回予想で、営業利益で25億円、経常利益で35億円の**下振れ**を見込んでおります。

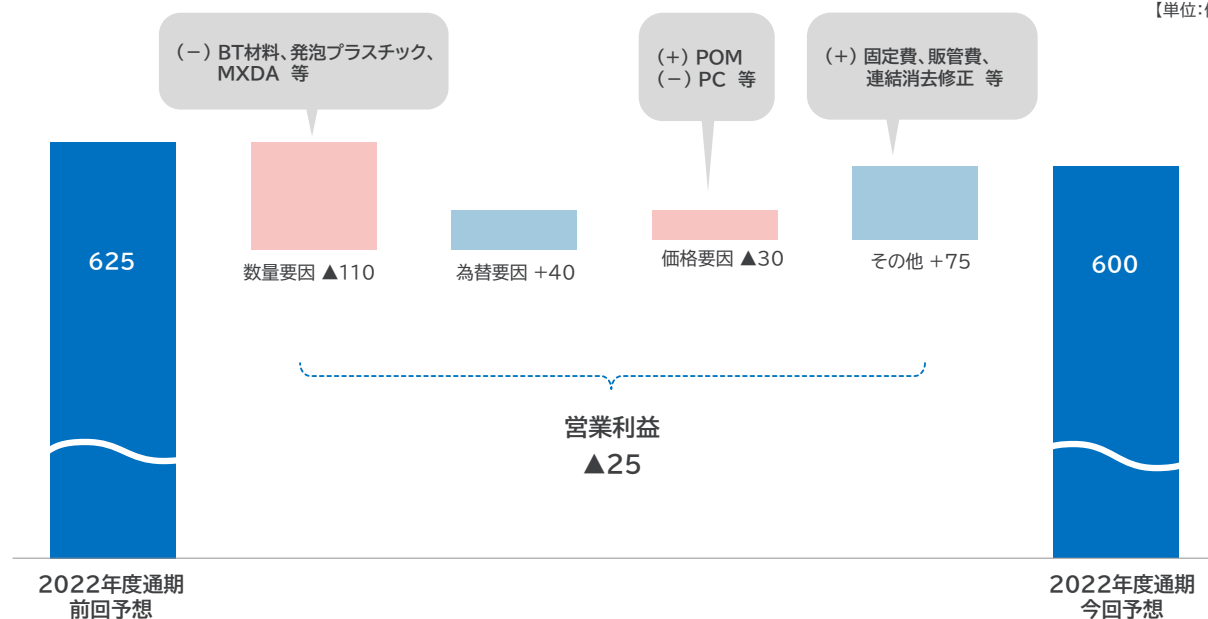
営業利益は、為替要因やポリアセタールの販売好調などの**上振れ要因**があるものの、BT材料などの半導体向け製品や、MXDAなどの**販売数量の下振れ**、ポリカーボネートの採算悪化などから、**前回予想を下回る見通し**です。

持分法利益も、海外メタノール生産会社の損益は**上振れ**を予想する一方で、機能化学品は**下振れ**が見込まれ、**前回予想を下回る見通し**です。

期末配当については、**前回予想と同額の40円**を予定しております。

2022年度 通期 営業利益 増減要因(前回予想比)

【単位:億円】



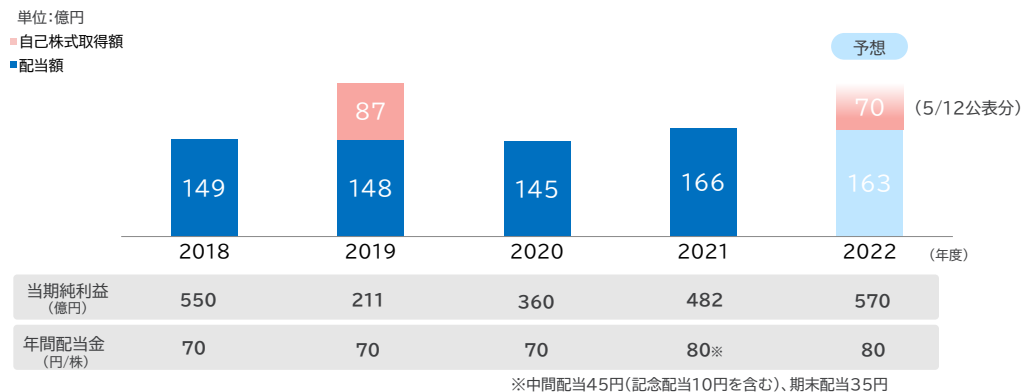
13ページは、2022年度通期営業利益予想の増減要因を、対前回予想比で示しております。後ほど、ご参照願います。

株主還元方針・株主還元

- 企業価値の向上を経営上の最優先課題と位置付け。配当は、安定配当の継続を基本に業績動向等を考慮して決定
- 内部留保の水準と株主還元の水準を勘案して、自己株式の取得も機動的に実施し、資本効率の向上と株主還元の充実を図る
- 総還元性向40%を中期的な株主還元の目安とする



・ 2022年度の配当は80円を予想(普通配当ベースで10円の増配、前回予想と同額)



14ページは株主還元について示しております。

こちらに記載の方針に基づき、株主還元を実施しており、「総還元性向」については40%を中期的な目安としております。

具体的な還元については単年度ベースで機械的に適用するものではありませんが、事業の拡大・成長のための内部留保とも両立できる水準と考えております。

以上により、2022年度の配当は80円を予定しております。

1 | 2022年度 第2四半期 決算概要

2 | 2022年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2021年度実績			2022年度(前回予想)*1			2022年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,358	3,697	7,056	4,000	4,100	8,100	3,949	4,150	8,100
基礎化学品	2,009	2,244	4,253	2,349	2,396	4,745	2,363	2,563	4,926
機能化学品	1,375	1,479	2,855	1,689	1,740	3,429	1,618	1,619	3,238
全社/調整	▲26	▲25	▲52	▲38	▲37	▲75	▲33	▲32	▲65
営業利益	300	253	553	310	315	625	335	264	600
基礎化学品	158	98	257	131	87	219	144	64	209
機能化学品 *2	159	176	336	196	244	441	203	219	423
全社/調整	▲18	▲21	▲40	▲17	▲17	▲35	▲13	▲19	▲32
経常利益	387	353	741	410	425	835	499	300	800
基礎化学品	191	109	300	170	165	336	208	123	332
機能化学品	207	246	454	241	280	521	253	202	455
全社/調整	▲11	▲2	▲13	▲1	▲21	▲23	37	▲25	11

2021年度より、一部製品のセグメント変更を行っております。前年度のセグメント情報についても変更後の区分方法により作成しております。

*2 営業利益と持分法損益の連結消去修正による入り繰り

*1 2022年8月5日公表

機能化学品セグメントにおいて、連結消去修正を行った結果、前回予想と今回予想の営業利益と持分法損益の間で通期約30億円(上期15億円、下期15億円)の入り繰りが生じている。そのため、今回予想において、営業利益段階では前回予想に比べ約30億円の上げ要因、持分法損益では約30億円の下げ要因に。(経常利益段階では影響なし)

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 16

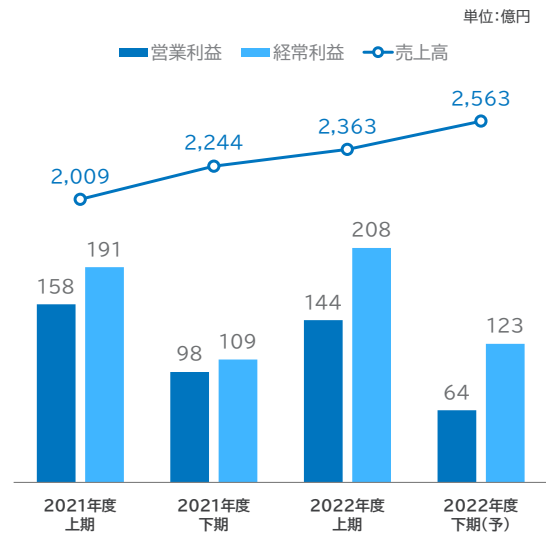
16ページは、セグメント別の売上高、営業利益、経常利益を示しております。

上期実績(前年同期比)

原燃料価格や輸送費の上昇などから営業利益は減益。一方で海外メタノール生産会社の持分法利益が増加し、経常利益は増益。

下期予想(上期実績比)

修繕費の増加(新潟工場、水島工場ともに2年に1度の不定修。影響額▲40億円)や、全般的な販売数量の減少などにより、減益を予想。



17ページ、基礎化学品事業についてご説明します。

上期実績は、

原燃料価格や輸送費の上昇などから営業利益は減益となった一方、海外メタノール生産会社の持分法利益が増加し、経常利益は増益となりました。

下期については、

新潟工場、水島工場ともに2年に1度の不定修で、上期比で40億円のマイナス影響があるほか、全般的な販売数量の減少もあり、上期比で減益を予想しております。

上期実績(前年同期比)

- メタノール:市況は前年同期をやや上回る水準で推移(21年度上期370ドル→22年度上期375ドル)。持分法損益は増益。為替差損がマイナス要因となったものの、繰延税金負債取り崩しのプラス要因で相殺され、結果として上期は概ね市況見合いの損益に。
- メタノール・アンモニア系化学品:原料価格が上昇した中で採算是正を進め、前年同期並みの損益。
- ハイパフォーマンスプロダクツ:芳香族アルデヒドの販売数量が増加したものの、原燃料価格や輸送費が上昇したことなどから、減益。
- キシレン分離/誘導品:原燃料価格の上昇などにより高純度イソフタル酸(PIA)の採算が悪化したことなどから、減益。
- 発泡プラスチック(JSP):原燃料価格等の上昇に対する製品価格改定時期の遅れなどにより、減益。

下期予想(上期実績比)

- メタノール:冬場の原料天然ガス供給制限や需要の増加により、バランスはタイト化を見込み、市況上昇を予想(上期:375ドル→下期:390ドル)。持分法利益は増益の見通し。
- メタノール・アンモニア系化学品:修繕費の増加(新潟工場:2年に1度の大修)や、定修に伴う販売数量の減少などから減益を予想。
- ハイパフォーマンスプロダクツ:芳香族アルデヒドは引き続き堅調な需要を予想も、MXDAの装置トラブルによる販売減(減益影響:概算▲10億円強)等から、減益を予想。
- キシレン分離/誘導品:引き続き低水準のスプレッドが続く見通し。
- JSP:原材料等は高い水準が続く見通しも、価格転嫁を進め、増益の見通し。

18ページは基礎化学品の事業動向を示しております。

上期実績は、

メタノールは、市況が前年同期をやや上回る水準で推移しました。持分法損益は、概ね市況見合いの損益となっております。

メタノール・アンモニア系化学品は、原料価格が上昇した中で、採算是正を進めた結果、前年同期並みの損益となりました。

ハイパフォーマンスプロダクツは、芳香族アルデヒドの販売数量が増加したものの、原燃料価格および輸送費が上昇したことなどから、減益となりました。

下期については、

メタノール市況は、冬場の原料天然ガス供給制限などから上期を上回る水準で推移する見通しです。持分法利益は、上期に比べ増加する見通しです。

ハイパフォーマンスプロダクツは、芳香族アルデヒドの需要は引き続き堅調な見通しですが、MXDAの装置トラブルによる販売減などにより、減益の見通しです。

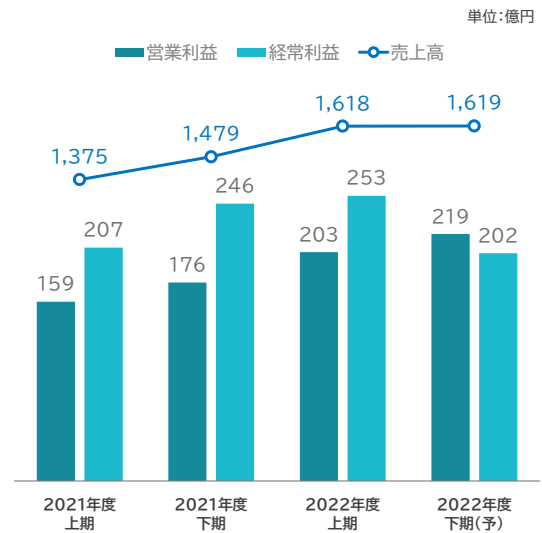
キシレン分離/誘導品については、上期に引き続き、低水準のスプレッドが続く見通しです。

上期実績(前年同期比)

PCやBT材料が前期を下回ったものの、円安や、POMの販売好調などにより増収増益。

下期予想(上期実績比)

ICT関連製品の需要は弱含む見通しも、PCの損益改善などを見込み、営業利益は増益を予想。
持分法利益の減少等で、経常利益は減益の見通し。



続いて19ページ、機能化学品事業についてご説明します。

上期実績は、

ポリカーボネートやBT材料が前期を下回ったものの、円安や、ポリアセタールの販売好調などにより増収増益となりました。

下期については、

ICT関連製品の需要の弱含みが見込まれますが、ポリカーボネートの損益改善などを見込み、営業利益は増益を予想しております。

一方で、経常利益は、持分法利益の減少等で、減益の見通しです。

上期実績(前年同期比)

- 無機化学品: 半導体向け薬液の販売数量が増加したものの、輸送費や原燃料価格が上昇し、減益。
- エンジニアリングプラスチック: ポリカーボネートの採算が悪化したものの、POMの販売好調・韓国POM販売会社の新規連結化などから、増収増益。
- 光学材料: 前年同期の顧客の在庫調整は解消したものの、光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォンの需要が低調に推移したことなどから、前年同期並みの損益。
- 電子材料: PC関連機器や家電向けなどの汎用材料の需要が落ち込んだことなどから、減収・営業減益となったものの、持分法損益が増加したことなどから、経常利益は前年同期を上回る損益。
- 脱酸素剤: 海外向け販売が食品分野を中心に堅調に推移したものの、原材料費や輸送費が上昇したことなどから、前年同期並みの損益。

下期予想(上期実績比)

- 無機化学品: 価格是正が進む製品も一部にあるものの、半導体向け薬液の販売数量が弱含む見通しで上期並みの損益を予想。
- エンジニアリングプラスチック: POMは比較的高い販売価格を維持しているものの、タイトバランスの緩和による市況軟化を予想。ポリカーボネートは引き続き厳しい収益環境が続くものの、自動車向け等の需要回復や、中国拠点の損益改善を見込む。
- 光学材料: 上期と同様、スマートフォンの需要は低調に推移する見通しで、上期をやや下回る損益を見込む。
- 電子材料: 汎用材料の回復やスマートフォン新モデル向けの生産は第4四半期と想定。上期をやや下回る損益を予想。

20ページは機能化学品の事業動向を示しております。

上期実績は、

無機化学品は、半導体向け薬液の販売数量が増加したものの、輸送費や原燃料価格が上昇し、減益となりました。

エンジニアリングプラスチックは、ポリカーボネートの採算が悪化したものの、ポリアセタールの販売好調により、増収増益となりました。

光学材料は、前年同期の顧客の在庫調整は解消したものの、主用途であるスマートフォンの需要が低調に推移したことなどから、前年同期並みの損益となりました。

電子材料は、PC関連機器や家電向けなどの汎用材料の需要が落ち込んだことなどから、減収・営業減益となったものの、持分法損益が増加したことなどから、経常利益は前年同期を上回る損益となりました。

下期については、

無機化学品は、価格是正が進む製品も一部にあるものの、半導体向け薬液の販売数量が弱含む見通しで、上期並みの損益を予想しております。

エンジニアリングプラスチックは、ポリカーボネートにおいて、引き続き厳しい収益環境が続くものの、自動車向け等の需要回復や、中国拠点の損益改善を見込んでおります。

光学材料は、上期と同様、スマートフォンの需要は低調に推移する見通しで、上期をやや下回る損益を見込みます。

電子材料は、汎用材料の回復や、スマートフォン新モデル向けの生産は第4四半期と想定しており、上期をやや下回る損益を予想しております。

1 | 2022年度 第2四半期 決算概要

2 | 2022年度 通期 業績予想

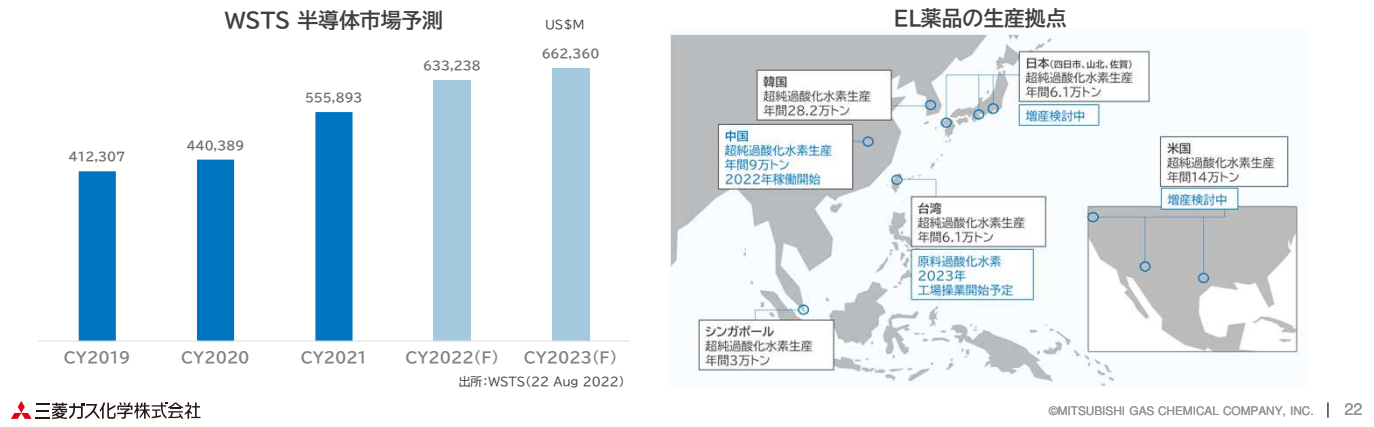
3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス

続いて、トピックスについてご説明します。

さらなる成長が期待される半導体市場に向けて、超純過酸化水素の生産体制を強化

- 北米:オレゴン州工場の増設ラインは2023年度に商業運転開始予定。テキサス州、アリゾナ州工場についても増設検討中。今後もマーケットの伸びに合わせて、トップシェアを維持すべく更なる設備投資を検討
- 日本:佐賀製造所にて製造ラインを増強予定
- 台湾:原料過水の工場を建設中(2023年稼働予定)、超純過酸化水素までの一貫生産体制を構築中
- 中国:超純過酸化水素の工場を完工、顧客認定取得中



22ページは、競争優位事業の成長投資として、EL薬品の超純過酸化水素の生産体制強化について示しております。

中長期的にさらなる成長が期待される半導体市場に向けて、今後もグローバルな生産体制をより一層強化していく計画です。

北米オレゴン州工場の増設ラインは2023年度に商業運転開始予定です。テキサス州、アリゾナ州工場についても増設を検討中です。日本国内でも、佐賀製造所の増強を予定しております。

また台湾において、原料過酸化水素から超純過酸化水素までの一貫生産体制を構築中のほか、中国においても新たな工場を完工しており、現在、顧客認定を取得中です。

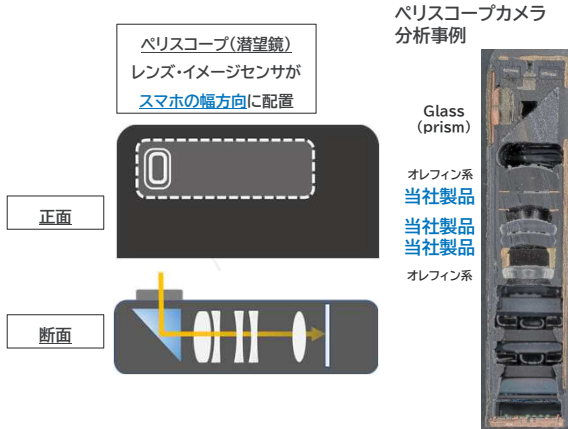
今後も機を逸することなく、タイムリーに成長投資を進めてまいります。

主用途のスマホカメラレンズにおける採用拡大、及び新たな市場分野への展開

- スマホカメラの高機能化が進む中、当社材の更なる採用が進む
- VR、車載(モニター、センシング)、監視カメラ・Webカメラ等、新たな市場分野での展開も視野

●ペリスコープ(潜望鏡)カメラ

・複数メーカーのハイエンドモデルのペリスコープカメラに当社製品が採用実績あり



●VRデバイス

・外部カメラレンズに採用実績あり、また接眼レンズ向けにも販売開始
・軽量化・薄型化に貢献し、一般ユーザーが使用しやすい仕様へ



●車載向け

・射出成型による高い生産性、高屈折率且つ耐熱性に優れ、車載向け(モニター、センシング)での採用あり



●監視カメラ、Webカメラ

・監視カメラ向け特殊グレードを開発し、一部で採用決定

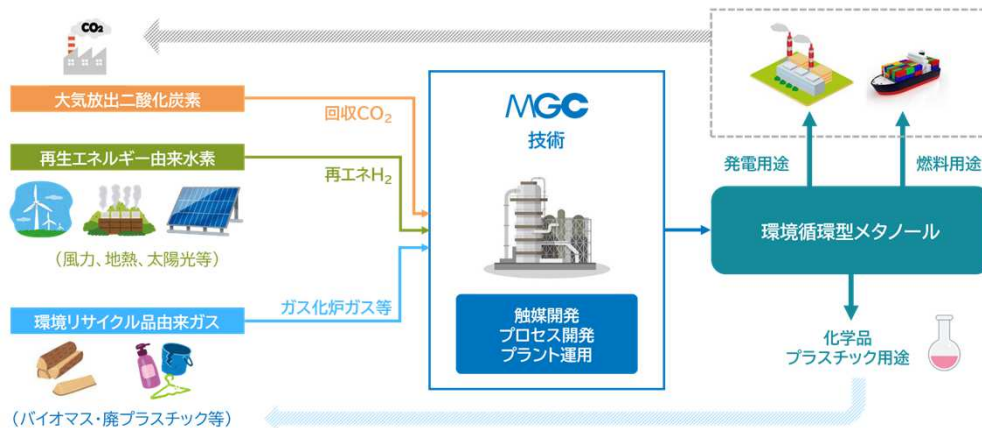
23ページは競争優位事業の更なる強化として、光学樹脂について示しております。

主用途であるスマートフォンカメラレンズ分野では、高機能化が継続する中、主にハイエンドモデルにおいて、潜望鏡型のペリスコープカメラの導入など、高屈折性・低複屈折性に強みを持つ当社材料の更なる採用が進んでおります。

また、VRや車載のセンシング、監視カメラ・ウェブカメラ等でも採用実績を増やしており、新たな市場分野での展開も見込まれます。

足元ではスマートフォン需要が弱く、影響を受けているものの、中長期的にはこのような最先端分野での採用も増やすことで、当社材料を伸ばしていきたいと考えております。

大気放出CO₂・廃プラスチック・バイオマスなどを、メタノールに変換し化学品や燃料・発電用途としてリサイクルする取り組み「環境循環型メタノール構想」を推進



**Carbopath™
(カーボパス)**

当社は環境循環型メタノール構想のブランド名をCarbopath™(カーボパス)と命名しました。

炭素のCarbonと、開拓者のPathfinderにちなみ、この構想を力強く推進する先駆者となる想いととも、カーボンニュートラル達成や循環型社会の実現も意図しています。環境循環型メタノールの「出所」と「品質」を保証し、製品名や関連サービス、構想そのものを示す言葉として展開してまいります。

図 環境循環型メタノール構想

続いて24ページ以降ではトピックスとして、環境循環型メタノールを示しております。

当社はCO₂・廃プラスチック・バイオマスなどをメタノールに変換して、化学品や燃料・発電用途としてリサイクルする「環境循環型メタノール構想」を推進しております。

本年7月に、当社が取り扱う商品、サービスを「Carbopath™(カーボパス)」と命名しました。

環境循環型メタノール構想を力強く推進する先駆者となる、という想いととも、カーボンニュートラル達成や、循環型社会の実現も意図しております。

1)新潟工場のパイロット設備による2ステップでの実証実験

・2021年8月より各種試験や連続運転(CO₂処理量:約1.5トン/日)を開始、これまでに第1ステップとなるCO₂とH₂からのメタノール製造に関する実証実験を終え、現在は技術ライセンス可能な状況となっております。

・2022年8月より第2ステップとして、廃プラをガス化して得られた合成ガスなど、多様な原料からのメタノール合成プロセス最適化について技術課題の評価・検討を行っております。



新潟工場のメタノールパイロット設備

2)国内初、CO₂活用の環境循環型メタノールの社会実装について共同検討を開始

2022年6月、当社メタノール製造技術を適用し、株式会社トクヤマの徳山製造所にて排出されているCO₂と徳山製造所内で生じるH₂を原料としたメタノール製造販売の事業化につき、同社と共同検討(FS)を開始しました。

<https://www.mgc.co.jp/corporate/news/2022/220630.html>



25ページをご覧ください。環境循環型メタノール構想の推進についてご紹介します。

1点目は、新潟工場における実証実験の状況です。

第1ステップとなる、CO₂と水素からのメタノール製造の実証実験は終了し、現在すでに技術ライセンス可能な状況となっております。今年8月から、第2ステップとなる、廃プラをガス化した合成ガスなど、多様な原料ガスからのメタノール合成プロセス最適化について、技術課題の評価・検討を行っております。

2点目は、トクヤマとの共同検討で進めている、国内初のCO₂活用の環境循環型メタノールの社会実装です。

環境循環型メタノールの技術を適用し、トクヤマの徳山製造所にて排出されているCO₂と、同所内で生じる水素を原料としたメタノールの製造販売の事業化について、検討しております。

3)国内初となる廃プラスチックのガス化及びメタノール化実証事業を開始

2022年8月、株式会社神鋼環境ソリューション、大栄環境株式会社、DINS関西株式会社、三菱化工機株式会社と当社の5社で提案しました「廃プラスチックのガス化及びメタノール化実証事業」が、環境省「令和4年度 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」に採択されました。

(<https://www.mgc.co.jp/corporate/news/files/220823.pdf>)

4)グリーン水素・CO₂を使用した環境循環型メタノール事業について共同検討を開始

Cement Australia Pty Ltd(本社：オーストラリア クィーンズランド州)と当社は、当社の環境循環型メタノール製造技術を適用し、Cement Australiaのグラッドストーン工場から回収するCO₂とグリーン水素を原料としたメタノール製造販売の事業化検討を行うことに合意する覚書を締結しました。

(<https://www.mgc.co.jp/corporate/news/files/221028.pdf>)



Map data ©2022 Google

26ページをご覧ください。

3点目として、本年8月に開始した、他社と共同での「廃プラスチックのガス化、及びメタノール化実証事業」について示しております。

最後に、下段では4点目として、10月28日にプレスリリースしました、オーストラリアでのグリーン水素・CO₂を使用した環境循環型メタノール事業を示しております。

「セメントオーストラリア」社と、当社の環境循環型メタノール製造技術を適用し、同社工場から回収するCO₂とグリーン水素を原料としたメタノール製造販売の事業化検討を行うことについて合意しました。

なお、本日ご紹介した案件以外にも、非常に多くの引き合いをいただいております。

今後も、水素製造・CO₂の分離回収、廃棄物やバイオマスの回収・ガス化等、ノウハウを保有する企業との協業はもとより、化学産業のみならず、産業横断的な取り組みを進めることで「環境循環型メタノール構想」を実現してまいります。

私からの説明は以上になります。

Appendix

参考:各種指標(1)



単位:億円	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022(予)
設備投資額 [上期]	254 [138]	222 [103]	305 [149]	350 [137]	309 [139]	392 [186]	423 [224]	402 [158]	547 [220]	820 [312]
減価償却費 [上期]	235 [114]	237 [115]	267 [131]	256 [122]	270 [131]	274 [135]	295 [144]	306 [151]	319 [158]	330 [161]
研究開発費 [上期]	161 [80]	168 [80]	189 [92]	192 [96]	189 [95]	186 [91]	196 [94]	199 [98]	210 [101]	235 [111]
年度末人員(人)	5,445	8,254	8,176	8,034	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,408
一株当たり当期純利益 (円/株)*	66	192	154	222	281	257	101	173	232	277
ROA(総資産経常利益率) (%)	4.8	5.8	5.9	8.4	10.6	8.7	3.9	6.2	8.4	8.3
ROE(自己資本当期利益率) (%)	5.0	12.6	9.0	12.0	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	9.7
ROIC(投下資本利益率) (%)	6.1	7.2	7.3	10.4	13.2	10.9	4.9	7.7	10.4	10.3
配当金(円/株)* [うち2Q末]	24.0 [12.0]	28.0 [14.0]	32.0 [16.0]	38.0 [16.0]	59.0 [24.0]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	80.0※ [45.0※]	80.0 [40.0]

*当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

※記念配当10円を含む

参考:各種指標(2) セグメント別 設備投資額・減価償却費(連結)

単位:億円	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019		2020	2021		
設備投資額※	天然ガス系化学品	45	57	53	90	60	57	72	基礎化学品	197	192	
	芳香族化学品	23	40	106	105	113	146	150		機能化学品	186	326
	機能化学品	112	76	99	81	110	144	146	特殊機能材		66	43
	特殊機能材	66	43	38	66	19	23	26			その他	18
	その他	5	3	7	5	6	21	27	合計			402
	合計	254	222	305	350	309	392	423	合計	402	547	
減価償却費	天然ガス系化学品	63	69	61	50	51	55	63	基礎化学品	164	171	
	芳香族化学品	41	39	82	85	85	87	95		機能化学品	130	130
	機能化学品	95	92	88	86	91	87	87	特殊機能材		31	33
	特殊機能材	31	33	30	30	35	36	38			その他	11
	その他	3	3	3	3	5	8	10	合計			306
	合計	235	237	267	256	270	274	295	合計	306	319	

※固定資産計上ベース

参考:各種指標 (3)



	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期実績	下期予想
為替(JPY/USD)	110	112	109	109	107	105	110	115	134	140
為替(JPY/EUR)	130	127	121	120	121	126	131	130	139	140
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	73	65	64	56	37	52	69	87	102	100
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	408	335	277	245	194	319	370	428	375	390
原料キシレン(US\$/MT)	845	730	705	640	420	560	780	875	1,105	985
ビスフェノールA (US\$/MT)*	1,600 ~1,900	1,200 ~1,800	1,000 ~1,450	1,050 ~1,350	900 ~1,450	1,400 ~3,300	2,750 ~3,700	2,100 ~3,150	1,450 ~2,200	1,300 ~2,000
ポリカーボネート (US\$/MT)*	2,700 ~3,800	2,100 ~2,800	1,900 ~2,250	1,650 ~2,000	1,500 ~2,150	2,100 ~4,000	3,100 ~4,050	2,650 ~3,650	1,950 ~2,900	1,700 ~2,500

*期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) :1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益)
 為替(EUR) :1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)
 原油(Dubai) :1\$/bblの上昇(下落)で、1.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず
 メタノール :メタノール市況1\$/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

参考:主要製品群(旧セグメント)別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2021年度実績			2022年度前回予想*1			2022年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,358	3,697	7,056	4,000	4,100	8,100	3,949	4,150	8,100
天然ガス系化学品	1,049	1,213	2,262	1,209	1,294	2,504	1,194	1,368	2,563
芳香族化学品	976	1,051	2,028	1,161	1,123	2,284	1,190	1,213	2,403
機能化学品	1,023	1,118	2,141	1,325	1,393	2,718	1,261	1,295	2,557
特殊機能材	353	361	715	365	347	712	358	324	682
全社/調整	▲43	▲46	▲91	▲60	▲58	▲119	▲54	▲51	▲106
営業利益	300	253	553	310	315	625	335	264	600
天然ガス系化学品	54	43	97	49	41	90	65	34	100
芳香族化学品	104	55	160	81	46	128	79	30	109
機能化学品 *2	78	95	174	116	161	277	129	151	281
特殊機能材	80	81	161	80	83	163	74	67	141
全社/調整	▲17	▲21	▲39	▲17	▲17	▲35	▲13	▲19	▲32
経常利益	387	353	741	410	425	835	499	300	800
天然ガス系化学品	85	54	140	87	122	209	121	97	219
芳香族化学品	105	55	160	83	43	127	87	25	113
機能化学品	120	155	276	148	184	333	164	131	296
特殊機能材	86	91	178	92	95	188	88	70	159
全社/調整	▲10	▲2	▲13	▲1	▲21	▲23	37	▲25	11

注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

*1 2022年8月5日公表

*2 営業利益と持分法損益の連結消去修正による入り繰り

機能化学品セグメントにおいて、連結消去修正を行った結果、前回予想と今回予想の営業利益と持分法損益の間で通期約30億円(上期15億円、下期15億円)の入り繰りが生じている。そのため、今回予想において、営業利益段階では前回予想に比べ約30億円の不振要因、持分法損益では約30億円の不振要因に。(経常利益段階では影響なし)

報告セグメント	主要製品群 (旧セグメント)	主要製品
基礎化学品	天然ガス系化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイパフォーマンスプロダクツ(MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等) ・発泡プラスチック事業(子会社JSP)
機能化学品	機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・無機化学品(エレクトロニクスケミカルズ(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等)
	特殊機能材	<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・脱酸素剤(エージレス®等)

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

